

「A」次の文の(訳)の「」に入る語句として最も適当なものを選び、番号で答えよ。

1 ゆゆしき身に侍れば、(若宮方)かくおはしますも、いまいましよう、かたじけなくなむ。(源氏物語)

(訳) (私は娘に先立たれた)「」。「身ですので、若宮がこうして(私と一緒に)いらつしやるのも、縁起でもなく、おそれ多いことです。

- ①寂しい ②不幸な ③不吉な ④みじめな

2 はかばかしくも身の上をえ知り侍らず。(宇津保物語)

(訳)「」。「身の上を知ることができません。

- ①少しも ②はつきり ③これ以上 ④特別に

3 心もとなき日数重なるままに、白河の関にかかりて、旅心定まりぬ。(奥の細道)

(訳)「」。「日数が重なるうちに、白河の関にさしかかって、(やっと)旅に徹する心が定まった。

- ①とりとめのない ②不安な ③不愉快な ④しかたがない

4 家焼けたなりとて、いとほしがりて給ふなり。(枕草子)

(訳) (おまえの)家が焼けたと聞いたというので、「」。「て(短冊を)くださるそうだ。

- ①かわいそうに思っ ②調べようと思っ ③慰めになると思っ ④助けようと思っ

4 「」

5 いといはけなき御ありさまなれば、乳母たち近くさぶらひけり。(源氏物語)

(訳) (女三の宮は)ひどく「」。「ご様子なので、乳母たちがおそば近くに控えていた。

- ①弱々しい ②幼い ③みすぼらしい ④心細い

6 少しのことにも、先達はあらまほしきことなり。(徒然草)

(訳) ちょっとしたことにも、案内者は「」。「ものだ。

- ①大切な ②頼もしい ③あつてほしい ④立派な

7 今日しもかしこく参り候ひにけり。(宇治拾遺物語)

(訳) ちょうど今日は「」。「参上したものです。

- ①しかたなく ②仰々しく ③理由があつて ④好都合に

8 鳥辺山谷に煙の燃え立たばはかなく見えし我と知らなむ(拾遺和歌集)

(訳) 鳥辺山の谷間に煙が燃え立ったならば、「」。「見えた私(を火葬する煙)だと知ってほしい。

- ①悲しげに ②情けなく ③死にそうに ④頼りなく

「B」次の文の(訳)の「」に入る語句を答えよ。

9 いみじうやさしかりける人の妻に成りにけり。(古本説話集)

(訳) たいそう「」。「た人の妻になった。

9 「」

10 神樂こそ、なまめかしく、おもしろけれ。(徒然草)

(訳) 神樂こそ、(世俗じみず)優雅であり、「」。「。

10 「」

11 あなかたはらいたの法師や。(宇治拾遺物語)

(訳) ああなんと「」。「法師だなあ。

11 「」

12 身の才やむごとくなくして、公につかまつりけるほどに、道心をおこして出家せるなり。(今昔物語集)

(訳) 学才が「」。「て、朝廷にお仕えしていたときに、信仰心を起こして出家したのである。

12 「」

解答

【新三年生用】 古文単語380三訂版 P90～P99

- 1 「③」
- 2 「②」
- 3 「②」
- 4 「①」
- 5 「②」
- 6 「③」
- 7 「④」
- 8 「④」
- 9 「優雅だっ」
- 10 「興味がある」
- 11 「ばかばかしい」
- 12 「この上なく」